

地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会
社会水文学小委員会
(第25期・第1回)

議 事 要 旨

1. 日 時 令和4年2月22日(火) 10:00~12:00

2. 会 場 遠隔会議

3. 議 題

(1) 小委員会役員を選出について

- ✓ 司会より以下の4名の推薦があり、承認された。

委員長 中村 晋一郎 (名古屋大学)

副委員長 坂本 麻衣子 (東京大学)

幹事 高橋 そよ (琉球大学)

幹事 檜山 哲哉 (名古屋大学)

(2) 各委員の担当テーマについて

- ✓ DELFT INTERNATIONAL CONFERENCE ON SOCIOHYDROLOGY (6-8 September 2021) で設定された以下の5つのテーマの中から、各自の研究分野や関心に近いテーマを選択し、そのテーマに関連する研究分野の最新動向(自身の研究も含む)について解説・発表することになった。
テーマ 1: 水の公正性に関する画期的な新学問: 水文学・社会学、そしてそれらを超えて
テーマ 2: 人-水システムにおけるスケール問題
テーマ 3: 水資源と人間行動: 水-人間システムのフィードバックと共進化の解析とモデリング
テーマ 4: 人間-水データの革新的なセンシング・観察・測定・分析
テーマ 5. 水危機に対する解決策(実際の介入に関連するもの)
- ✓ 自身が対象とするテーマ(複数可)を口頭で報告した。

(3) 委員からの話題提供(森田先生)

- ✓ 森田委員から、上記5つのテーマのうち、テーマ 1 とテーマ 4 に関連して、その学術的背景と世界の動向についてご報告いただき、それらについて議論を行なった。
- ✓ 議論では、合意形成に関する国際的な手法・プロセスの日本への適応の妥当性、参加型モデリングの方法論、「Care」の概念の有用性等に関する意見が出た。

(4) その他

- ✓ 開催頻度は、可能な限りオンラインで毎月開催(日程調整の結果として1.5ヶ月に1回程度)とし、2022年夏頃に対面での会合を予定する。

- ✓ 今後の進め方は、A. テーマごとの報告（半年程度、1回につき報告2名）、B. 社会水文学の国内課題への適用可能性の検討（半年程度）、C. レビュー論文のとりまとめ（半年程度）の3フェーズとする。
- ✓ 「A. テーマごとの報告」は、社会水文学で扱われている用語や概念に関して、各自の分野から、その学術的な背景と世界的な動向（個人の研究も含む）を報告してもらう。
- ✓ 最終成果としてはレビュー論文（和文）を想定し、社会水文学の視点から、国内の学術・社会に向けて学際研究の可能性や課題に関するメッセージを発信することを目的とする。
- ✓ レビュー論文の構成としては、「第1章 世界的な社会水文学の動向」、「第2章 社会水文学の国内課題への適用可能性」を想定する。詳細については幹事会で検討する。
- ✓ 世界的な動向を把握するために、現在 IAHS メンバーで執筆が進んでいる書籍を参照する。
- ✓ 委員会の資料等は共有用ドライブを作成して、そちらで管理する。
- ✓ 今後の会合計画は、まず幹事会のメンバーで候補日を挙げて委員へ案内する

4. 配布資料：なし

以上